

有機ビジネスの展開

— (株) 秋川牧園を中心に —

県立広島大学大学院 鄒 金蘭
県立広島大学 四方 康行
広島県立大学大学院 今井 辰也

本報告は、「有機ビジネス」を無農薬・低農薬など安全な農・畜・水産物に配慮して生産・加工・流通を実際に行っている事業者のこととし、この分野において株式会社として上場している秋川牧園を取り上げ、今後の「有機ビジネス」の展開について考察する。

(株)秋川牧園は山口県山口市仁保下郷にある農業生産を主とした企業で、農業の生産現場から日本で初めて株式公開をしている企業である。1979年5月25日に設立された。資本金は7億1415万円、総資産 連結 38億908万円(2008年3月)、従業員数は260名(連結会社を含む 2008年3月)、第29期年次報告書(2007年4月1日～2008年3月31日)の連結会計年度の売上高は42億1百万円(前連結会計年度比7.1%増)、経常利益は58百万円(前期連結会計年度は73百万円の損失)、当期純利益は32百万円(前連結会計年度は3億35百万円の損失)となった。

当社グループ(当社及び当社の子会社)は、当社((株)秋川牧園)、連結子会社4社((有)あきかわ牛乳、(有)菊川農場、(株)チキン食品及び(有)むつみ牧場)で構成される。資本関係は無いものの協力関係がある法人6社、生産農家20件とともに、農薬・化学肥料・抗生物質等の薬物・化学添加物に頼らない安全な健康食肉、健康加工食品、健康鶏卵、健康牛乳、一般健康食品等に関連する事業活動を展開している。単なる組織化でなく生産は提携農家各自が担当、研究・技術開発や飼料供給、加工、販売、物流を共同会社である企業が担当する「ネットワーク組織」により、農家が生産に専念出来ると共に個人で難しい集中的な技術開発を行っている。経営では生産者、従業員全員が株主として経営を支える「経営参加制度」を設けており、これは品質管理、衛生面の設備を充実させるだけでなく、各自がかなりの額の資本を寄せ企業の理念を共有し合うことで「自分達の会社」という責任感を生産から流通各過程に持たせ、企業生産物の「品質」への信頼を得ることを目的としている。宅配事業を拡大し、生産から消費までの一貫体制でロスを防止しようとしている。

企業は生産者と統一規格・基準で契約を結び、生産物の全量を引き取るため需給調整も企業側が行う。両者の関係は単なる生産物買い付け・調達でなく、各農家情報を把握した総合的な営農指導に至っている。生産者受け取り価格は生産者と企業双方で決定するが、生産費を考慮し再生産可能な価格を設定、保証している。

有機ビジネスという言葉が適切であるかどうかはわからないが、他の「大地を守る会」や「らでいっしゅぼーや」などの事業展開とも比較しながら、(株)秋川牧園を中心に日本における有機ビジネスの展開を本報告において行う。